

◎ 解答は全て別紙のマークシートにマークすること。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

教 科	国 語	受 験 番 号

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(1) 二重傍線部のカタカナを漢字に直したときと同じ漢字を使うものとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 1 】

- ① レイ淡 ② レイ儀 ③ レイ行 ④ レイ属 ⑤ レイ魂

(2) 空欄 **I**、**II** に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 2 】

- ① I しかし II だから
② I しかし II やはり
③ I たとえば II しかし
④ I たとえば II だから
⑤ I たとえば II やはり

(3) 次の一文は本文中の (I) ～ (V) のいずれかに入る。この一文を入れるのに最も適切な箇所を、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 3 】

そして、こうした内面の共同性を人々に教える最もすぐれた教科書が小説だったのである。

- ① (I) ② (II) ③ (III) ④ (IV) ⑤ (V)

(4) 傍線部(A)「歴史の必然だった」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の

①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 4 】

- ① 明治期中産階級も現在の大衆も同質の教養を求めているが、資本主義の発展にともなうて、明治期中産階級と現在の大衆の権力との関わり方に質的な違いが生まれたのは誰の眼にも明らかだということ。
- ② 教養を身につけるために必要不可欠だとされていた読書が軽視されるようになったのは、高度経済成長期において、日本人の国民性が大きく変化したことの必然的な結果だったということ。
- ③ 教養を持った一部のエリートが支配階層として社会の中枢を占めたかつての状態から、幅広い大衆の存在が社会に大きな影響力を持つ状態に変化したのは、時代の流れに沿うものだという事。
- ④ かつて大衆は読書を通して教養を得ることでエリートに近づこうとしたが、大衆の多くが高い教養を身につけた現代では大衆の間の差がなくなり、大衆の読書に対する意欲が失われるのは当然だということ。
- ⑤ エリートが教養を身につけるためのものとしてあった読書が、現在では大衆が娯楽として消費するものへと墮落してしまつたことは、歴史の推移としてやむを得ないということ。

(5) 傍線部(B)「政治体制と近代読者との関係」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 5 】

- ① 近代の民主主義社会では、印刷された書物が一般に流通するのにもなつて、自ずと人々の間に読み書きの能力が普及し、自由な市民としての国民が近代文学を楽しむようになった。
- ② 近代民主主義の台頭は、読み書きの能力を有する国民が、共通語としてのラテン語で書かれた文学を読み、程度の差はあるものの民主主義の精神を理解できるようになつたことが主な原因となつてゐる。
- ③ 西洋の民主主義国家では、国民は政治に参加し国家を担う市民になるための教育の一環として読み書きの能力を身につけさせられ、自国の文学を享受するとともにそれを西洋全域に広めようとした。
- ④ 西洋の民主主義体制は、議会政治や司法制度の整備などよりも、印刷技術の発達と印刷物の流通、人々の読み書きの能力の向上によつて生まれた近代国民文学に支えられていた。
- ⑤ 近代の民主主義国家では、民族や言語における国民の一体感が不可欠だが、その一体感、教育により普及した読み書きの能力を背景とする自国語の文学の広がりに対応していた。

(6) 傍線部(C)『西洋型民主主義』の『外部』に出てみなければわからない」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 6 】

- ① 現在の日本では、読書が勧められ、人々が小説を読むことはごく普通なこととされているが、そうしたあり方は西洋近代の影響下で歴史的に形成されたものであったことが分かる。
- ② 作家はいても小説を書くことの許されない社会の存在を知ること、自由に小説が出版されて、作家が多くの収入を得ている現在の日本の恵まれた状況が分かる。
- ③ 西洋型民主主義の思想を取り入れることで、経済的な発展を追い求めてきた日本人が、西洋以外の社会を考察の対象としてこなかったという日本人のあり方が分かる。
- ④ 人間の書いたものの中に真実はないとするアラブ世界の考え方を知ること、西洋の人間中心主義的な考え方を自明のこととして受け入れている現在の日本人のあり方が分かる。
- ⑤ 戦後、資本主義社会の中で経済発展を重視してきた現在の日本人が、アラブ世界の現実を知ること、自民族中心主義から抜け出して柔軟に思考することの重要性が分かる。

(7) 傍線部(D)「小説は国語教育に取り込まれることによって、国民的な教育装置となった」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 7 】

- ① 近代小説は、人々に国民意識を植えつけるための唯一のメディアであったが、学校で一定の道徳的な読み方を強制的に教えられた結果、国家にとって望ましい国民意識をもった国民が養成されたということ。
- ② 近代小説は、自由で教養のある市民としての国民を育てるものであったはずなのに、国語教育に利用されたことで、実態の伴わない国民国家という意識や国民に共通する内面を教える道具になったということ。
- ③ 近代小説は、国家権力の意向を汲み取って書かれ、学校ではその小説を一定方向の読み方で教育してきたので、国民は自由な読み方をすることが許されず、次第に人間の価値を規定するものとして機能するようになったということ。
- ④ 人間の内面を描くことの多い近代小説は、読者に内面の共通性を教える働きをもつが、社会が求める人間を目指すような読み方が学校で教えられることで、国民の内面が標準化され、国民意識が強化されていったということ。
- ⑤ 人々の日常生活における道徳的な精神を描くことを主としていた近代小説は、教育の現場でその読み方が教えられるようになったことで、国民の間に共通する倫理観や共生の精神が自然に芽生えていったということ。

(8) 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 8 】

- ① 大衆が読書をするようになったのはそれほど昔のことではなく、多くの条件を満たしてはじめて近代的な読者となった一九七〇年代後半以後の中産階級が現在の大衆の原型である。
- ② 高度経済成長期には画一的な工業製品を持つことが幸福と考えられ、「みんなと同じ」という心性が国民に蔓延し、この風潮の中で大衆が小説を読んだことが出版文化の隆盛につながった。
- ③ 近代国民国家において、国民は民族的・言語的統一感を得るために、本国語の読み書き能力を用いて、本国語で書かれた文学を読むようになった。
- ④ 歴史を学んだり、自分たちの社会の「外部」に出たりすることで、自らのあり方を顧みることは、自己の内部に「絶対的な規範」を確立するためには欠かせない重要なものである。
- ⑤ 神が絶対的な規範でなくなった近代では、緩やかな規範としての共同体が崩壊し、個人として孤立した大衆は、他人を真似ることで生きる方向性を得ようとするようになった。

(9) 本文の展開の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 9 】

- ① 最初に大衆が小説の読者となる条件を挙げ、教養としての読書について考察している。次に、そうした条件を整備したのが近代国家であることを、さまざまな例を示しながら説明する。最後に、近代小説が成立した当時の様子を振り返りながら、あるべき読者の姿を模索している。
- ② 最初に近代的な読者が誕生する条件や読者のあり方の変容を明らかにしている。次に、先人の研究や学説を引きながら、西洋型民主主義と文学との深い関わりを説明する。最後に、小説の読者としてのありようを顧みることの重要性を述べ、小説と国家の関係を論じている。
- ③ 最初に小説を読むことを当然視している現在の日本の問題点を指摘している。次に、その原因が西洋型民主主義を安易に取り入れた近代日本社会にあることを述べる。最後に、現在の日本人が西洋型社会の外部に出ることや、小説のあり方について問い直すことの必要性を強調している。
- ④ 最初に近代において教養を身につけるものであった読書が単なる消費に墮したことを指摘している。次に、近代的な読者が生まれた背景を多方面から検証する。最後に、読書を単なる消費財にしてしまった現代人は、近代人のような道徳的な読み方を取り戻すべきだと訴えている。

- ⑤ 最初に日本の近代と現代における大衆や読書のあり方の相違点を説明している。次に、近代的な読者が生み出された経緯を、複数の学者の考察を踏まえて解説する。最後に、小説が国語教育に取り込まれていった近代日本特有の事情を欧米社会と比較しながら客観的に分析している。

二 東京の世田谷に住む小学五年生の千恵は、夏休みの間、東京の下町にある祖父のエンジの家で暮らすことになった。以下の文章はそれに続く場面である。これを読んで、後の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(1) 傍線部 (A) 「やっぱり変な感じだった」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 10 】

- ① 普段は父の行動を注視したことはないが、エンジの家でくつろぎ食事をしている父と、世田谷の家で上品に振る舞う父との違いを冷静に分析する自分の姿に気付かされ困惑したから。
- ② 話し方や食事の仕方だけではなく、容貌まで父とエンジがよく似ていることに気づき、千恵に話すときの口調はいつも通りでも、父ではなくエンジと話しているような気がしたから。
- ③ 別人のように粗野な父の姿と、いつも通りの口調で千恵に話しかける姿との間に違和感を覚え、目の前にいるのが父であることは理解しつつも、父ではないようにも思われたから。
- ④ エンジに対するぞんざいな口のきき方や、食事をする際の父の上品な行動を目の当たりにして、普段とは様子の違う父は何かにはらだっているように感じたが、そのいらだちを千恵に隠しているように思えたから。
- ⑤ 千恵に話しかけるときはいつもの父の姿をみせてくれるが、食事の際の行儀悪さから実家でエンジに甘えている父の意外な一面に気づき、どちらの父が本当なのか困惑したから。

(2) 傍線部 (B) 「さして面倒じゃなかったがな」の意味として最も適切なものを、次の

①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 11 】

- ① 何も気になることはなかった
- ② まったく大変ではなかった
- ③ 思ったより手がかからなかった
- ④ たいして煩わしくはなかった
- ⑤ それほど苦痛ではなかった

(3) 傍線部 (C) 「だけど泣くものかと思った」とあるが、このときの千恵の心情として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 12 】

- ① 愛着を感じ始めていたエンジの家を去る時が近づき、自分でも説明できないほど大きく動揺したが、冷静に考えれば自分の家に帰るのは当然のことなので、泣く必要はないのだと気づき始めている。
- ② 父とエンジがしぐさも容貌もよく似ていることから、この場所は父とエンジの家であったということに気づき、孤独感にとらわれているが、一人になっても強くあらねばならないと自らを励ましている。

- ③ 父とエンジとの間で自分のことがすべて勝手に決められていくことに理不尽さを感じ、今までの自分が崩壊しそうに思えたが、たいしたことはないのだと強いて自分に言い聞かせている。
- ④ 勝手に千恵の今後が決められていることに悲しみと怒りを感じるが、千恵を世田谷の家に帰そうとする二人の思いも理解できるので、父やエンジを困らせるようなことはしないでおこうと思っている。
- ⑤ エンジの家を離れることが勝手に決められたことへの憤りや悲しみ、また、エンジの家を離れることから来る、言葉で言い表せないほどの思いにとらわれているが、自分をなだめ、平静を保たねばならないと思っている。

(4) 傍線部(D)「気持ちが収まらないまま」の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 13 】

- ① 不満ばかり抱え込んだまま
- ② 気分を変えられないまま
- ③ うれしさを無理に抑えたまま
- ④ 思いを伝えられないまま
- ⑤ 感情を整理できないまま

(5) 傍線部(E)「お父さんは、勝手に話し続けている」とあるが、この時の父と千恵の心情の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 14 】

- ① 昔のままの自分の部屋を見た父は、生家に対する愛憎の入り混じった思いを語り、感傷に浸っているが、千恵は、父の考えがひとりよがりのものであると感じている。
- ② 昔と変わらない部屋で、父は幼少時代の自分の失敗を思い出し、後悔の念を抱いているが、千恵は、自分に関係のない昔話を一方的に語る父を冷ややかにとらえている。
- ③ 生家を憎んだ過去を語ることで、父は千恵に自分の本心を知ってもらおうとしているが、同じように父に対して複雑な思いを抱く千恵は、父に対して不思議な共感を覚えている。
- ④ 父にとって自分の部屋は今も憎んでいる生家や実父の象徴であり、辛かった過去を思い出しているが、千恵は、千恵自身の気持ちを考えないで思い出に浸る父にいらだっている。
- ⑤ 幼少時代から過ごした部屋を見て、父は生家への憎しみを超えて努力した時代を懐かしんでいるが、千恵は、自分の成功体験に固執する父の姿に気付き、あきれている。

(6) 傍線部(F)「今は、ふたりとも、それどころじゃなかった」とあるが、この時の父と千恵の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 15 】

- ① 千恵は、両親への不満を通して父に家族が持つ普遍的な意義を理解してもらおうとしており、父は、娘のただならぬ様子に驚いているため、周囲の音に気づく余裕はなかったということ。
- ② 千恵は、ただ感情に任せてこれまでためこんでいた思いを父にぶつけており、父は、娘が自分の嘘を見抜いていたことに驚いていたため、部屋の外のことまで考えられなかったということ。
- ③ 千恵は、父や母に対する思いを述べることで精一杯であり、父は、感情的になっている娘の気持ちを鎮めることを第一に考えているため、エンジの身に起きていることがわからなかったということ。
- ④ 千恵は、両親への不平やエンジの家に対する思いを吐き出すことで精一杯であり、父は、千恵をあつげにとられて見ているため、人が近づいていることにかまっていられなかったということ。
- ⑤ 千恵は、日ごろから抱いていた両親への不満を伝える好機と捉えており、父は、娘の思いを真剣に受け止めたいと考えているため、階下から誰が来ようと気にしてははられなかったということ。

(7) この文章の表現の特徴として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 16 】

- ① I段落「味噌汁は？」「冷蔵庫にある」における父とエンジの会話は、エンジに対する父の照れや甘えと、それをおおらかに受け入れるエンジの様子を通して、父親と息子の間に見られる特有の関係を淡々と表現している。
- ② II段落「ああ、そうか」のように、千恵の主観に添った語りに加え、VIII段落「千恵は感情のまま訴えた」のように、千恵を客観的にとらえた語りもあり、千恵の心情や状態を効果的に表現している。
- ③ II段落「ようやく気付いた」とVI段落「そこでふと、気付いた」では、いずれも千恵の父がこの家で育ったことに千恵が気付く場面であり、「生家とは何か」という問題を千恵が考える契機になっている。
- ④ IV段落「階段がギイギイと鳴いた。いや泣いた」では、擬人法が用いられており、千恵と父親のけんかを悲しむエンジの気持ちを反映して階段が泣いたように表現することで、孫との関係をうまく作れない息子をふがいなく感じるエンジのいらだちをも示している。

- ⑤ 本文に三箇所ある「ふう——。ふう——。」という表現は、千恵の感情が次第に高まり、父と対等に張り合おうという闘争心が千恵に芽生えたことを象徴的に表現する効果がある。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

むつき廿日あまりより本国あふみにありしが、晦日の夜、松杉山といふうへに火のもゆるが、さだかに雲にうつろふけしき、おそろしかりけるに、京おほきにやけぬといひわたりしかば、

(A) とみに人をのぼせぬ。其明けのあしたも、猶日の色ただならず。煙なるべし、雲霧のやうに立まよひし間、かたがたへの便をきくに、建仁寺の前、宮川のまちより火出て、はげしき風のまにまにちりみだれつつ、上中下残る所なくやけうせぬといへば、わがやどもはやう煙となりぬらんとはおもへど、常にいひ教しこと、「調度はをしむな。老たるしぞくをあやまちさせずいざなひて、とくのがれよ」といへるを守なんと (B) 心やすくて、尚さだかなる便を聞て出立なんと、しづまりて有しかど、方広殿の大門に火うつりぬときこゆ。「いかにまれ、はや帰たまはんこそよからめ」とすすむる人のあれば、やがて物にのりて、よすがらいそがせつつ、二日の朝、ばかりに帰りてみるに、晦日よりこなた、火をさけて入こみたる人々の名残、尚ものさはがしけれど、例のうぐひす、のどかに来なくが嬉しくて、口ずさむ。

(C) 帰来て聞もさらにぞめづらしき煙にもれしやどのうぐひす

そもそも (D) こたびばかりの火は、京にてためしなしといふ。宝永の火は今もかたりつたへて、おそろしき事にいふめれど、そは京の町、拾が六也とかや。其さき応仁の乱れの火も、彼記にすさまじうかけれど、こたびばかりはなし。中昔、かもの長明の記にみゆるも、大風、地震、飢饉などつづけて書たれば、身の毛いよだつやうなれど、火ばかりとりはなちては、京の中、三がひとつといへり。こたびは洛中洛外をかけて九分にあまり、残れる所ははつかに方広殿のめぐり、祇園、知恩院、栗田のわたり、西本願寺はあやうくてまぬがれ、はた東寺、北野ばかりとなん。

されば、禁裏、仙洞をはじめ奉り、諸宮公卿の御館ども、ひとつに煙とのぼり、かけまくもかしこき御うへうへも、かたがたに離れうつらせ給ふ。晦日の夜、院の白川へ遷幸ましますを、河原に遁れし人の拌み奉りしを聞ば、雨さへ風にきほふに、衣冠の人々とりどりに、ささやかなるともしをさげてさきをおひたまひ、御どもの御つぼね女房達は、衣うちかづきたるばかりにて笠もなく、しとどにぬれて皆かちはだしにて渡り給ひぬるは、めもあてられざりしといへり。さしも玉をみがきたる殿客、こがねをちりばめし精舎も、残なく灰となりぬるに、寺は、
此后とりたつべき祇陀も須達も、己々がやどりさへなくなりたれば、省るよしもあらじと哀也。

かかるさはぎにあひて、火に入り水におぼるのみか、人せきあひてまろびふまれて死し、

あるは行つかれて息絶、飢てたふれしもおほく、いづこもいづこもかばね所せしと聞ゆ。あるは親をうしなひ子をたづね、かしこころにもとめて、二日三日をへてもあひたるはよし、生死のわいだめもしらず、ちまたにさげぶもあるべし。やまひ限なる人、子うむにのぞむ女などは、其身のみならず、(E) あつかふ人もいかなる心ならんと、思ひやるもむねいたし。

(注) *1 本国あふみ 筆者の本家があつた滋賀県近江八幡市。

*2 松杉山 近江八幡市にある山。その先は京の方角にあたる。

*3 しぞく 親族。

*4 方広殿 方広寺。京都市東山区にある。筆者の住まいは方広寺近くにあつたとされる。

*5 宝永の火 宝永の大火。

*6 禁裏、仙洞 天皇の御所と上皇の御所。

*7 此后とりたつべき祇陀も須達も 「この後再建に手助けするはずの祇陀や須達のような人々も」という意味。祇陀は古代インドのコーサラ国の皇太子。須達は同国の長者。祇陀太子と須達長者は私財を投げうって釈迦のために寺院を建立した。

*8 わいだめ 区別。

(『かぐ土のあらび』による。)

(1) 本文中の には午前八時頃を表す十二支の漢字が入る。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 17 】

- ① 酉 ② 辰 ③ 戌 ④ 卯 ⑤ 巳

(2) 傍線部(A)「とみに人をのぼせぬ」の解釈として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 18 】

- ① 急いで使いの者を京へ行かせた
② あらかじめ家の者に連絡してあつた
③ 緊急を知らせる使者は来なかつた
④ 慌てて家の者を高台に避難させた
⑤ 多くの使者に京の都を見に行かせた

(3) 傍線部 (B) 「心やすくて」とあるが、筆者はなぜこのような心情でいるのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 19 】

- ① 自分の家は焼け落ちてしまったかもしれないが、家の者は世の中の教訓どおり、周囲の人を避難させたのだからと考えているから。
- ② 自分の家はすでに燃えてなくなっているだろうが、家の者は日頃の教えを守り、全員無事に避難しただろうと考えているため。
- ③ 自分の家はもう焼けてなくなっているだろうが、家の者は帝の命令のとおり、全員が無事に避難しただろうと考えているから。
- ④ 自分の家はまだ燃え続けているだろうが、家の者は古来よりの言い伝えどおり、近所の人と一緒に避難しただろうかと考えているため。
- ⑤ 自分の家は焼け失せてしまったかもしれないが、家の者は年寄りの知恵のとおり、全員無事に避難できただろうと考えているから。

(4) 傍線部 (C) の和歌「帰来て聞もさらにぞめづらしき煙にもれしやどのうぐいす」に込められた筆者の心情の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 20 】

- ① 京の都が火事で焼けてしまったのに、これまでと変わらない様子で鳴いているうぐいすを見て、この世の無常を実感している。
- ② この季節にうぐいすが鳴くのは珍しいことだが、本家の庭でうぐいすの声を聞き、家族の無事がわかったことに胸をなでおろしている。
- ③ 家族が無事であったことに安堵しているが、火事でうぐいすが滅つてしまい、鳴き声が聞けなくなったことを残念に思っている。
- ④ 大火事の混乱はまだ残っているが、自宅の庭でいつものようにうぐいすが鳴いている声を聞き、皆が無事に生き延びたことを実感している。
- ⑤ 京の町が火事で焼け、自宅の庭が荒れ果ててしまったにもかかわらず、飼っていたうぐいすが生き残っていたことに驚いている。

(5) 傍線部 (D) 「こたびばかりの火」についての説明として適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 21 】

- ① 今回の火災は前例が無いほどの甚大な被害をもたらす、宝永の大火や応仁の大火も今回ほどではなかった。
- ② 今回の火災は、一月の月末から二月二十日過ぎまでの、およそ一か月にわたって京の町が燃え続けた。
- ③ 今回の火災は、これまでに京の町を襲った火災の中で最も被害が大きく、京の町の九割近くが燃えてしまった。

- ④ 今回の火災によつて御所も燃えてしまったため、院は家来と共に雨風の中を白川まで避難しなければならなかった。
- ⑤ 方広寺の周辺、知恩院、西木願寺、北野天満宮は、今回の火災を免れて燃え残ったようである。

(6) 停線部(E)「あつかふ人もいかなる心ならん」の解釈として最も適切なものを、次の

- ①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 22 】
- ① 噂をしている人もどのような考えなのだろうか
- ② 介抱している人もさぞかし嫌がつているだろうか
- ③ 見物している人もどれほど悲しい思いでいるのだろうか
- ④ 世話をしている人もどのような気持ちなのだろうか
- ⑤ 仕えている人もどんなにかつらく思っているだろうか

(7) この文章の表現の特徴として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 23 】

- ① 猛火の中を逃げ惑う人々の姿と、のどかに鳴くうぐいすの姿を比較しつつ、火災で家族を失うことの深い悲しみを克明に描いている。
- ② 京の町を襲った火災の様子を、和歌や仏教に関する豊富な知識も用いて、過去の記録と比較しながら理知的に描き出している。
- ③ 京の町を襲った悲惨な火災のありさまを、筆者自身の体験に加え、伝聞したことや過去の記録を織り交ぜながら具体的に描いている。
- ④ 京の町を襲った火災について描いた古典の表現を多く引用しながら、大災害の様子を端正な文体で描いている。
- ⑤ 京に残した家族に対する自らの思いを抑制して、火の中で苦しむ人々の姿を臨場感あふれる筆致で見事に描き出している。

四 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合上訓点を省略したところがある。

(A) 孟子將朝。王使^ス人來^ラ曰、寡人如就見^ル者也。有^リ寒疾、不可^ク以^テ風朝^ス。(B) 將視朝^ス、不識^ク、可使^ス寡人得^ル見^ル乎。對曰、(C) 不幸而有疾、不能造朝。明日出^テ弔^ス於^テ東郭^ノ氏^ノ公^ノ孫^ノ丑^ノ曰、昔者辭^ス以^テ病^ヲ、今日弔^ス或^レ者不可^ク乎。曰、昔者疾、今日愈^ス。(D) 如之何。不^レ用^ス。王使^ス人問^ヒ疾^ヲ、醫^ヲ來^ラ孟仲子對^テ曰、昔者有^リ王命^ニ有^リ采^ノ薪^ノ之^レ憂、不能造朝。今病小愈^ス、趨^リ造^ス於朝。我^レ(E) 不識^ク能^ク至^ル否^ヤ乎。使^ス數人^ヲ要^セ於路^ニ曰、請^フ必^ズ無^ク歸^ル而^{シテ}宿^ス於朝^ニ不^レ得^ル已^ト而^{シテ}之^キ景丑^ノ氏^ノ曰、景子^ノ曰、内^ニ則^チ父子^ノ外^ニ則^チ君臣^ノ人之^レ大倫^也。父子^ノ主^ト恩^ヲ君臣^ノ主^ト敬^ヲ。丑^ノ見^ル王^ノ之^レ敬^ス子^ヲ也。

(F) 未見所以敬王也。

- (注) *1 寒疾・・・風邪。 *2 風・・・風にあたる。 *3 東郭氏・・・齊の大夫。
*4 公孫丑・・・孟子の弟子。
*5 采薪之憂・・・病気になって自ら薪を採ることのできない心配。
*6 要於路・・・道の途中で待ち受けていること。 *7 景丑氏・・・齊の大夫。

(『孟子』による。)

(1) 傍線部(A)「孟子將朝王。王使人來、曰」の内容の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 24 】

- ① 孟子が朝早く王のところへ行こうとしていた時、王が使者とともに来て言った。
② 孟子が王宮を訪問しようとしていた時、王が使者を派遣して言わせた。
③ 孟子が王朝の再建を手伝おうとしていた時、王に使者を派遣して言わせた。
④ 孟子が朝廷に向かっていた時、王が使者を派遣して言わせた。
⑤ 孟子が朝から医者のところへ向かっていた時、王の使者が来て言った。

(2) 傍線部(B)「將視朝」の主語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は【 25 】

- ① 王 ② 孟子 ③ 王と孟子 ④ 使者 ⑤ 使者と孟子

(3) 傍線部(C)「不幸而有疾、不能造朝」の理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 26 】

- ① 王の真似をして自分も風邪をひいたと嘘をつくことで、相手を油断させようと思ったから。
② 王宮を建てるためには、過大なエネルギーが必要なのに、自分の健康にすら自信がもてないから。
③ 政治権力者のもとに行き頭を下げるよりも、死者を弔うことの方が大切だと思ったから。
④ 王朝を再興するために残された時間が、病気の治療のために次第に少なくなってしまうから。
⑤ 相手からの要請に、自分を呼びつけようとする政治権力者の傲慢を感じ取ったから。

(4) 傍線部(D)「如之何不弔」の読み方として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 27 】

- ① これをいかんぞとてうせず
- ② これをいかんしてかてうせざらんや
- ③ これにゆきてなんぞてうせざる
- ④ かくのごときになんぞてうせざらん
- ⑤ かくのごときになにをかてうせざる

(5) 傍線部(E)「不識」とあるが、孟仲子が「不識」と答えた内容として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 28 】

- ① 孟子が本当に朝廷に向かったのかどうかということ。
- ② 孟子が東郭氏の邸へ着いたのかどうかということ。
- ③ 孟子が無事に朝廷に参ることができたかということ。
- ④ 朝廷へ参内できるほど、孟子の病が回復したかどうかということ。
- ⑤ 本来の政治活動が行えるほど、王の病が回復したかどうかということ。

(6) 傍線部(F)「未見所以敬王也」を「いまだわうをけいするゆゑんをみざるなり」と訓読するとき、「見」に付す返り点として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 29 】

- ① レ ② 一レ ③ 二 ④ 三 ⑤ 下

(7) 本文の内容として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は【 30 】

- ① 公孫丑は病気の身であったが、王の命令に背いて弔問に行こうとする孟子を止めようとした。
- ② 孟仲子は師である孟子を守ろうと王の使者に対して孟子は病気であると嘘をついたが、すぐに王にばれてしまった。
- ③ 孟仲子は孟子に対して、医者とともに王宮に向かうようお願いしたが、王の仮病を見抜いていた孟子は向かわなかった。
- ④ 自らの信念を守って王の命令に背いた孟子は、国から追放されて景丑氏の世話になることになった。
- ⑤ 景丑氏は孟子に対して、孟子の行動は人の道に沿ったものではなく、王を敬っていないと指摘した。

令和4年度採用 岐阜県公立学校教員採用選考試験
第1次選考試験 高等学校 国語

問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正解	③	④	②	③	⑤	①	④	⑤	②	③

問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正解	④	⑤	⑤	①	④	②	②	①	②	④

問題番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正解	②	④	③	②	①	⑤	②	③	④	⑤

